五小だより

6月号
令和７年５月３０日（金）
国分寺市立第五小学校
０４２－３２２－００４５
校長　齋藤　晃

五小ブログ
五小ボランティア

「個に応じた指導」とは

教務主任　畑中　康輔

運動会後、子ども達はやりきった表情で下校していく姿がありました。短距離走で満足な走りができたことや、表現運動で振り付けを間違えずに踊れたこと。さらには、代表リレーでバトンパスが上手くできたこと、応援合戦で精一杯の声が出せたことなど、子ども達にとってはそれぞれ満足した部分や悔いが残った部分など様々です。全員が全員同じ児童ではなく、考え方が違ったり性格も違ったり様々です。最近では、「個別最適な学び」や「個に応じた指導の工夫」など教育界でも一人一人違った児童に対しての指導方法の例示が増えてきています。

私は、子どもだけではなく、大人もさらには教育界以外の所でも「個別最適な学び」というものが必要であるのではないかと最近思います。それは、中日ドラゴンズの根尾昂投手のプロ野球人生から考えさせられました。根尾選手は私と同じ岐阜県出身で、高校は名門大阪桐蔭高校に進学。甲子園では優勝をし、高校日本代表に選ばれ、鳴り物入りでプロ野球選手になりました。内野手から外野手、また内野手そして、今は投手をしています。投手を始めたころは150km/h 超えるボールを投げ、世間を騒がせました。最近はあまり良い結果が出せず、プロ野球７年目を開始しています。昨年度までは、投手として投げ方等指導を受けて、平均球速が145km/h と伸び悩んでいました。しかし、今年はコーチと相談し「元の投げ方に戻そう。」としたそうです。その結果、先日の試合では155km/h を出し、進化した姿を見ることができました。根尾選手がいい例として、根尾選手の特性（体の使い方、体の強さ）などを考慮せず、指導した結果、投手としての輝きを失いかけたのではないかと思います。

私は土日、少年野球の監督をしているのですが、野球の指導を通しても感じます。全員が全員同じ打ち方を教えても選手は打てるようにはならないと思います。もちろん基本は大切ですが、一人一人、プロ野球選手も小学生も少年野球選手も変わりありません。それぞれの人間にはそれぞれに合った指導方法がある。それを見出すのが教師であり、教育者であるかと思います。それぞれの児童の特性を考慮したうえで引き続き指導を続けていきたいと思います。

読書旬間

６月９日（月）～６月２０日（金）は読書旬間です。本校では、各学期に１度、２週間の読書旬間があります。朝読書、地域の方々による本の読み聞かせや語り、図書委員会の児童によるイベント等、読書に親しむことができるような企画を予定しています。旬間中は、本を３冊借りることができます。ご家庭でも、本を一緒に読んだり、読んだ本の感想を聞いてみたりと一緒に取り組んでみてください。ぜひこの機会に、たくさんの本を手に取り、読書の楽しさを感じてほしいです。

司書教諭　仙頭　春菜